

農村RMO形成モデル支援 加子母地区 加子母むらづくり協議会（岐阜県中津川市）



地域資源を活用した新たなコミュニティビジネスを創出し、活動全体としての収益性を確保することにより、農用地保全活動や、地域ぐるみで持続的に地域経営を行っていきける体制を整備する。

#域学連携、#地域がキャンパス、#農泊、#リジェネラティブ・トラベル、#地域放送システム、#カシモール

対象地域

(事務局名)

NPO法人かしもむら

(地域の範囲)

旧市町村区（10集落）

(土地面積（R5.4月時点））

11,416ha

(農地面積（R5.10月時点））

296ha

(世帯数（R5.4月時点））

962戸

構成員

- ・NPO法人かしもむら
- ・中山間直払集落協定（10地区）
- ・加子母農地・水・環境保全会
- ・中津川市社会福祉協議会加子母支所
- ・加子母観光協会（農林泊推進協議会）
- ・加子母森林組合
- ・中津川北商工会加子母支所

活動に関連する他の施策

- ・地域おこし協力隊
- ・域学連携事業
- ・コミュニティバス運行事業
- ・「デジ活」中山間地域
- ・中山間地域等直接支払交付金
- ・多面的機能支払交付金

取組内容

現状と課題

農用地保全

- 急傾斜かつ畦畔の占める割合が大きい農地や、不整形や面積の小さい農地が多いことから、平地と比べて多大な労力が必要。
- 農家の後継者育成や新規就農者を確保していくことが求められている。

地域資源活用

- 高齢化や鳥獣害被害による生産意欲も低下傾向にあり、特産品の出荷数量は減少傾向。
- 大学生が地域に滞在して課題解決に取り組む「域外連携事業」（継続中）を踏まえた、新たなコミュニティビジネスの創出が課題。

生活支援

- 高齢者をはじめ地域住民が安心して暮らし続けるためにも、通院、買い物、外出支援といった、地域で支え合う仕組みづくりが必要。
- 農業と福祉を組み合わせた生きがい創出や、地域包括ケアの推進などが課題となっている。

課題に対する対応方針

- 農家や地域住民、不在地主などにアンケート調査を行い、地域や農家に関する将来の意向を把握する。
- 若い世代も参加するワークショップを通じ、持続的な将来ビジョンを定めていく。

- 地域で生活を営んでいる様々な人たちと、域外連携に参画する大学生や、都市部で生活する地元出身の若者などとワークショップを開催し、地域資源の活用プランを検討していく。

- 地域全体で支え合う持続可能な福祉社会を実現するため、自助・共助・公助の考え方にに基づき、制度に伴うサービス等を組み合わせた仕組みづくりを進める。

目標値（アウトカム）

- 農用地保全に関する行動計画及び農用地利用計画（案）の作成。

- 地域資源活用に関する行動計画（案）の作成。

- 生活支援に関する行動計画（案）の作成。

押しポイント

域学連携を通じた大学生と地域住民の交流を通じ、地域サポート人材としての関係性の構築と新たなコミュニティビジネスの創出を目指しています。



農村RMO形成モデル支援 下山学区 岡崎市下山学区地域づくり協議会（愛知県岡崎市）



地域の課題を「わがごと」として捉え、農用地保全・地域資源活用・生活支援に取組み、自主的・自立的に課題解決できる、持続可能な魅力ある下山学区を創出する農村RMOを目指す。

#体験農園、#遊休施設活用、#クアオルトウォーキング、#関係人口創出

対象地域

(事務局名)

岡崎市中山間政策課

(地域の範囲)

小学校区（6集落）

(土地面積（R4.11月時点））

1,505ha

(農地面積（R4.3月時点））

123ha

(世帯数（R4.11月時点））

275戸

構成員

- ・下山学区対策委員会
- ・農業生産組合
- ・あいち三河農業協同組合
- ・岡崎森林組合
- ・中京学院大学
- ・岡崎市

活動に関連する他の施策

- ・デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）
- ・地域おこし協力隊
- ・集落支援員
- ・重層的支援体制整備事業
- ・地域支え合い事業（車両貸出）
- ・みどりの食料システム戦略推進交付金
- ・中山間地等直接支払交付金
- ・多面的機能支払交付金

取組内容

現状と課題

農用地保全

- 中山間地域等直接支払交付金も活用し農用地保全に取り組んでいるものの、農林業の低調及び耕作者の高齢化などにより、耕作放棄地も多く存在。
- 高齢化や人口減少が続く中、今後、更なる耕作放棄地の増加が懸念。

地域資源活用

- 地場産業として酒蔵があり、クアオルトウォーキングコースが設定されているなど、地域の自然環境を活かした取組も行われている。
- 地域からは、農作物を収穫しても、地域住民の利益につながる施設がないという意見もある。

生活支援

- 地域内で見守り活動などにも取り組んでいるが、人口減少により、地域の役の負担は増加し、活動も減少。
- 市街地まで車で30分程度であるが、公共交通機関は少なく、車の運転ができない人には問題である。

課題に対する対応方針

- 今後の耕作可能予想も含めた農地の利用状況を把握。
- 引き続き耕作を行う農地のほか、高収益作物の導入や体験農園への活用など、農地利用の多様化を図りながら農用地保全を検討。

- 6次産業化による農林業の雇用及び所得向上を検討。
- 地域内の遊休施設について、農林産物の販売など農林業体験活動の拠点としての活用を検討。
- クアオルトウォーキングなど、地域の自然環境の資源活用も検討。

- ワークショップ等を通じ、地域として取り組める活動を検討し実行していくとともに、地域活動の拠点整備や担い手確保のための関係人口創出につながる取組についても検討していく。

目標値（アウトカム）

- 実証結果を踏まえた農地利用計画の作成（一式）。

- 実証結果を踏まえた行動計画の作成（一式）。

- 実証結果を踏まえた行動計画の作成（一式）。

推しポイント

豊かな自然に囲まれた岡崎市下山学区。閉店した店舗を活動拠点として活用し、都市部にお住まいの方と連携した農作業体験など様々な行事を企画しています。



	1年目（令和4年度）	2年目（令和5年度）	3年目（令和6年度）
取組の総括	<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会や4つの作業部会を中心に話し合いを進め、幅広い年代の参加によるワークショップを開催し、将来ビジョン及び行動計画（案）を策定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> （2年目以降に記載） 	<ul style="list-style-type: none"> （3年目以降に記載）
農用地保全	<ul style="list-style-type: none"> 耕作状況の把握及び将来の農地利用意向の調査、稲作体験プログラムの企画・募集。 ⇒農地を活用した高単価体験プログラムを策定。農地利用の可能性を探ることができた。  	<ul style="list-style-type: none"> （2年目以降に記載） 	<ul style="list-style-type: none"> （3年目以降に記載）
地域資源活用	<ul style="list-style-type: none"> まち歩きプログラム及び遊休施設での農林産物の直売、加工等の利用について検討。 ⇒地域住民のDIY等により施設を一部改修。地域資源を活用するための準備が整った。  	<ul style="list-style-type: none"> （2年目以降に記載） 	<ul style="list-style-type: none"> （3年目以降に記載）
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> 遊休施設（旧JA下山支店）の活用方法及び車両を活用したボランティア輸送の検討。 ⇒地域の拠点施設としての体制整備を進めることができた。  	<ul style="list-style-type: none"> （2年目以降に記載） 	<ul style="list-style-type: none"> （3年目以降に記載）



無人販売所の運営や地域資源の商品開発等の収益化、地域内外からの賛助会員の会費を活用した村おこし活動の展開。

#IT機器、#オンデマンドカー、#無人直売所

対象地域

- (事務局名)
NPO法人東米良創生会
- (地域の範囲)
集落の集合体（12集落）
- (土地面積（R4.11月時点）)
14,200ha
- (農地面積（R4.11月時点）)
143ha
- (世帯数（R4.11月時点）)
117戸

構成員

- ・東米良地域づくり協議会
- ・東米良1区、2区、3区
- ・NPO法人東米良創生会
- ・西都市猟友会
- ・銀上集落協定
- ・(株)農業法人かぐらの里
- ・(株)廣末鯉家・米良産魚(株)
- ・石川林業
- ・社会福祉法人善仁会本部
- ・西都市

活動に関連する他の施策

- ・地域包括ケアシステム
- ・西都市互助による輸送事業
オンデマンドカー
- ・鳥獣被害防止総合対策交付金
- ・中山間地域等直接支払交付金

取組内容

現状と課題

農用地保全

- ・労働力不足の影響により、農地の維持が難しく、山間地域であることから鳥獣被害も深刻。
- ・地域農業の維持のため、労働力の確保と省力化、鳥獣被害対策を含む効率的な営農体制の構築が必要。

地域資源活用

- ・ゆずやジビエといった地域の特産品はあるものの、その流通や加工・販売体制が未確立。
- ・空き家や遊休施設が複数あることから、それらの有効活用を図ることが課題。

生活支援

- ・地域住民の半数以上が65歳以上の高齢者であり、災害時の安否確認体制の確立や移動手段の確保、デジタルデバイド（情報格差）の解消等が必要。

課題に対する対応方針

- ・農作物管理や鳥獣被害防止のための労働力を、関係者間で融通し合える体制づくり。
- ・ベテラン農林業者の技術を継承できるように、技術の見える化。
- ・IT機器導入による農園管理や鳥獣捕獲情報の共有等の体制づくり。

- ・オンデマンドカー等を活用した共同での農産物の物流体制の整備やネット販売、無人直売所の設置。
- ・ゆず、ジビエ、竹林等の地域資源を活用した商品開発。
- ・地区交流施設・キャンプ場等の整備を行い、都市農村交流等の実施。

- ・防災会議の開催や避難所アンケートの実施。避難困難者情報の共有。
- ・診療所と救急時の情報共有と連携、地域包括ケアシステムの構築。
- ・高齢者向けネット学習・学習支援。

目標値（アウトカム）

- ・年間必要労働力の視覚化を通じた地域雇用計画の作成。
- ・熟練農家の技術情報の集約を通じたシステム化検討案の作成。
- ・鳥獣生息数の把握。

- ・出荷希望農家数・販売品目・品数の試算表作成。
- ・地場産品の選定と販売計画案を作成。

- ・無人販売所利用希望者数・希望品目・利用頻度調査による設置場所・時間等の運営案を作成。
- ・出荷希望農家のうち出荷困難農家の支援体制案の作成。

推しポイント

当地域は国重要無形民俗文化財指定の銀鏡神楽をはじめとする古くから継承される集落活動を大切にしています。地域住民一人一人が主役になれるような活動を通して、1,000年続く村を目指します。



	1年目（令和4年度）	2年目（令和5年度）	3年目（令和6年度）
取組の総括	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人手不足解消のため、アンケートによる現状把握やデジタル技術を活用した情報収集、農作業技術の調査などを実施。次年度の実証に向けた計画を策定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ （2年目以降に記載） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ （3年目以降に記載）
農用地保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熟練農家の栽培技術継承に向けたIT技術活用の検討や、労働力不足に係る調査の実施。 ⇒ 剪定技術に関するシミュレーション講習を議論し、課題を確認。また、住民アンケートにより、地区労働力の現状を把握した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ （2年目以降に記載） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ （3年目以降に記載）
地域資源活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥獣の生態利活用調査及びドローンによる鳥獣追い払いの調査、実証。 ⇒ 生態調査により、捕獲及びジビエ活用の検討を実施。ドローンや追い払いに関する課題等、先進機器活用の必要性を理解できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ （2年目以降に記載） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ （3年目以降に記載）
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無人販売所の需要調査及び遠隔システムを備えた無人販売所の試験運用。 ⇒ 買い物状況に関するアンケートを実施するとともに、IT技術を活用した生活課題解決や人手不足解消に向けた情報収集を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ （2年目以降に記載） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ （3年目以降に記載）